

りんご整枝・剪定のポイントについて（花むすび2月号掲載）

J A中野市園芸課

今回は、りんご（ふじ）の整枝・剪定のポイントについてご紹介します。

整枝・剪定は、1年の栽培管理の中で最も重要な作業の一つです。

昨年の作柄、樹の状態（樹勢の強弱）に応じた剪定を心がけましょう。

1. 剪定の基本3原則

- ①日光が園地の隅々まで入るようにする。
- ②薬液が園（樹）全体に到達するようにする。
- ③摘果・葉摘み等の作業がしやすいようにする。

2. 昨年の振り返り

- ①着色が悪かった。
⇒ 日当たりが悪い可能性。
- ②病虫害（輪紋病、炭疽病、褐斑病、カイガラムシ、カメムシなど）の発生が多かった。
⇒ 薬剤のかかりが悪い可能性。
- ③樹勢が強い、光玉、ビターピット（カルシウム欠乏）が多かった。
⇒ 強樹勢、施肥過多の可能性。

3. 間伐・縮伐の検討

まず園地全体を見渡して、樹間距離は適正か、樹体に異常（枯れ枝、腐らん病の発生等）がないか確認しましょう。

- ・隣の樹の先端同士（樹冠）の間隔は最低1m以上必要（写真①）。
- ・間伐・縮伐する場合は、園全体の構想等を考慮し、残したい樹を優先する。

【写真①：樹間距離は余裕を持って】



樹冠距離が広いと、「日が当たりやすい」「作業がやりやすい」「薬剤がよくかかる」

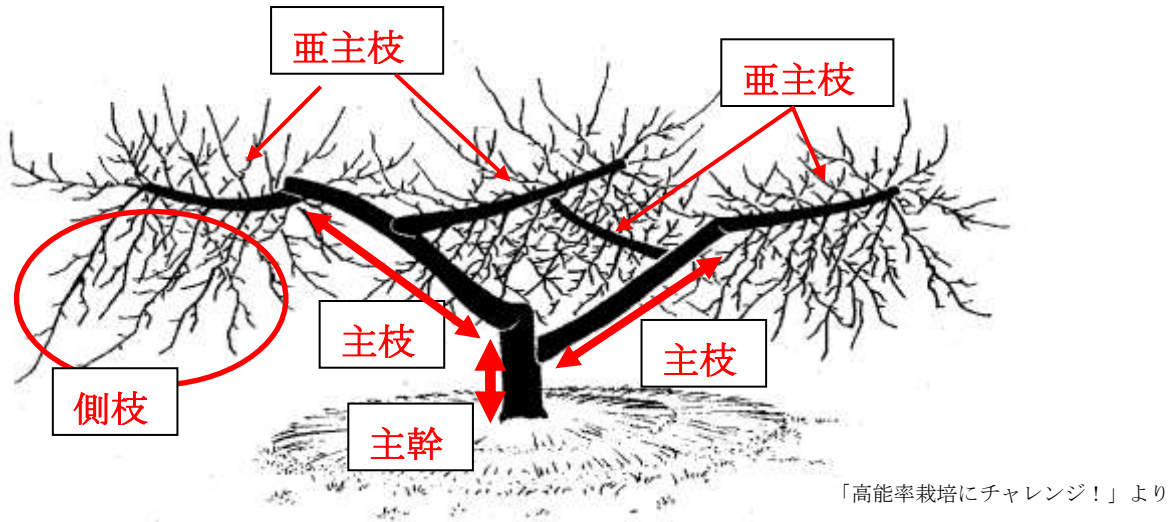
4. 樹形

定植～10年目 : 主幹形 (主枝4～8本程度の主枝候補枝)

11年目～20年目 : 変則主幹形 (主枝4本)

20年目以降 : 改良開心形 (図 : 主枝2本、垂主枝4本)

・15年生程度までは垂主枝を作らず4本主枝を維持し、細い側枝をなるべく多く残す。



5. 整枝 (枝の誘引、角度矯正) を行ってから剪定を進める。

- ①主枝先端が上向きな場合は、誘引紐や添え竹を使って角度を矯正する (写真②③)。
水平から30～40°程度の角度に調整する。
主枝や垂主枝の先端が下がってしまった場合は、鋼管支柱等を使って持ち上げる。

- ②側枝(成り枝)が重なり合う場合も誘引し、側枝によく日が当たるよう隣り合う枝との距離を確保する。

【写真②③ : 主枝先端の角度矯正】

写真②誘引前



写真③誘引後

紐で引いて角度を矯正



6. 剪定

◆樹勢に応じた剪定の強弱

・強樹勢（徒長枝の発生が多い・側枝先端の新梢長が30cm以上・光玉が多いなど）の場合
⇒ 弱剪定：のこぎりで切るような大枝・中枝を間引く程度。小枝はなるべく切らない。
小枝（花芽）を多く残すことで、花を多く咲かせ、結実させて樹を落ち着かせる。

・弱樹勢（樹全体的に枝が伸びていない・小玉が多いなど）の場合
⇒ 強剪定：のこぎり・はさみを使って切り戻し剪定（花芽の数を減らす）。樹勢回復を促す。
枝数を減らす事で発育枝が発生し、樹勢の回復に繋がる。

◆剪定の順序

主枝 ⇒ 垂主枝 ⇒ 側枝（成り枝）の順で剪定を進める。

1. のこぎりで大枝・中枝を間引く。

- ・主軸より太くなりそうな枝、混み合って日当たりを悪くしている枝を間引く。
- ・太短い枝や徒長枝の発生が多い枝（写真④）には、良い花芽がつかず良果も結実しない。
- ・樹のなかで幅をとらない細い枝（写真⑤）は、早期に花芽が着き良果も結実する。
- ・車枝（同じ発生位置から複数の枝が発生している枝）を両方残すと、それより先の主軸が細くなり主枝の維持が困難になるため、どちらか片方にする。

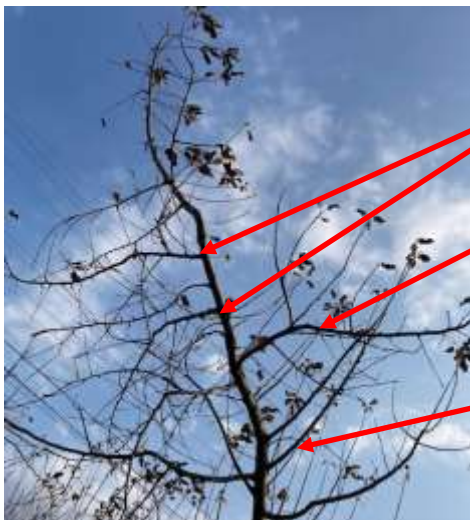


写真④ 間引き枝（基部の徒長枝の発生多い）



写真⑤残す枝（徒長枝の発生少なく花芽多い）

写真⑥中枝の間引き前



基部が太く徒長枝が発生し、日当たりを悪くしている枝。切除する。

基部は太いが、この枝を切ると主枝右側の側枝が無くなるため、切らずに基部周辺の徒長枝を切除して長大化を防ぐ。

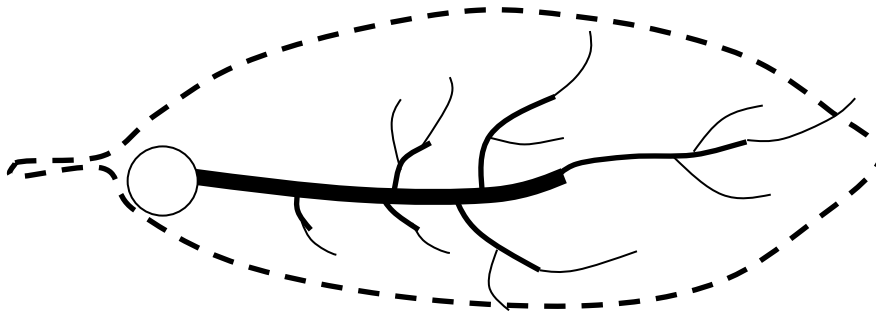
車枝（主枝の同じ発生位置から左右に側枝が発生している。）片方を切除する

写真⑦間引き後



2. 成り枝の処理は最後に行う。

枝の配置は葉の形を意識する。



・中間部に枝を多く置き、基部に太い枝は置かない。

果台枝（かだいし）を多く残す。

- ・果台（写真⑧⑨）を通っている枝は、枝の伸びが落ち着きやすく、花芽が着きやすい。
- ・多くの果台を経由した成り枝ほど、着色・ミツ入り・ツル割れ軽減に繋がり、高品質な果実がなりやすい。
- ・小枝が混み合っていたら、果台のない枝を切除し、果台枝をなるべく残しましょう。

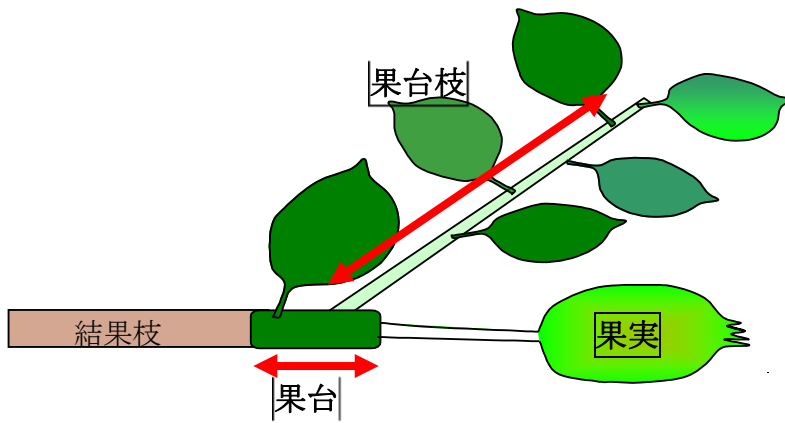


写真⑧



写真⑨

◆果台（かだい）と果台枝（かだいし）とは？（下図参照）



7. おわりに

整枝・剪定は枝を切るだけでなく、こまめに誘引する等して手間をかけておくことで、後の管理作業の省力化、高品質生産につながります。誘引作業は積極的に行いましょう。
また、剪定の際にできた樹の切り口には癒合剤（トップジンMペースト等）をこまめに塗布しましょう。

ご不明な点やご相談がありましたら、お気軽に園芸課・りんご担当までお問い合わせください。
営農センター内 園芸課・りんご担当 TEL：0269-23-3933